

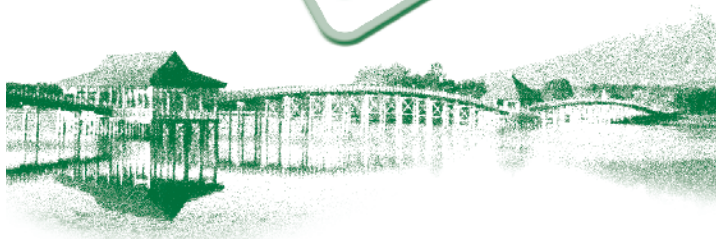
高品質りんごのため剪定ポイント学ぶ

1月4日（火）、町りんご支会連絡協議会およびそのほか町生産者団体が、りんご剪定技術の水準を高め、安定的な高品質りんごの生産推進を図るため、宮本良一氏の園地で毎年恒例の新春りんご剪定会を開催。町内の生産者約50人が剪定技術を学びました。

講師を務めた弘前市の三上勉さんは「適度に空間がないとうまく育たない。」などと剪定のポイントを説明しながら、実際にノコギリで枝を切っていました。参加者たちは、今年のりんご生産に役立てようと熱心に剪定技術を学び、理解を深めていました。



△どの枝を切るかを指示する三上講師



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

消防団が高齢者宅の雪下ろし

2月1日（火）、鶴田町消防団大性分団（神成和也分団長）は大性地区にある高齢者単身世帯の屋根雪を下ろすボランティアを行いました。

同分団では今冬の大雪を受け、危険な箇所はないか地区内の見回りを行い、雪下ろしのボランティアを行うことを決定しました。

当日は5人の分団員が集まり、高齢者宅の雪下ろしを行いました。ボランティアを行ってもらった住民は「今年は雪がとて多くて手が回らなくて大変。助けてもらえて本当にありがたい」と感謝していました。

神成分団長は「今年は雪が多く、高齢者の1人暮らしも多いので、見回りを行いました。実際に屋根に上がると、見た目より雪の量や重さがあり、危険性を感じたので、早めにやれて良かったです」と話していました。



△高齢者宅の屋根雪を下ろす消防分団員たち

感染対策衛生品をこども園に寄贈

2月10日（木）、齋勝建設株式会社（齋藤彰浩代表取締役）はNOGI こども園（坂崎力紀園長）に不織布マスクや除菌シート、消毒液を寄贈しました。

同社は岩木川保安橋旧橋上部撤去外工事を行っており、現場近くの工事に伴う騒音・振動などへの理解や協力への感謝、地域貢献の気持ちを込めて、今回同園への寄贈を決定しました。

同社の現場代理人對馬康介さん、監理技術者奈良孝徳さん、担当技術者新谷勝さんらが同園を訪れ、代表の5歳児3人に不織布マスクを手渡しました。

對馬さんは「少しでも子どもたちが健やかな生活を過ごしてほしい」と話し、坂崎園長は「園内の至るところで日常的に使うものなので、今回の寄贈は大変ありがたいです」と感謝していました。



△贈られた衛生用品を手に笑顔を見せる園児たち



△雪室リンゴを寄贈した中野さん（左）と受け取った片山校長（右）

「雪室リンゴ」を味わって

妙堂崎のりんご農家「拓紅園」の中野光彦さんは2月22日（火）、自宅敷地内で雪室リンゴを掘り起こし、鶴田小学校に寄贈しました。

例年は児童も掘り起こしを体験していましたが、今年は感染症対策のため中止となりました。

昨年12月からサンふじや王林、こうこうなど11品種約150箱を雪室で貯蔵。同日は、約3メートルの高さになった雪室からスコップを使い、りんご箱を掘り起こしました。中野さんは「果汁、糖度ともに十分。子どもたちがまた掘り起こした体験ができる環境になることを願っています」と話していました。掘り出されたリンゴのうち王林とサンふじ6箱を鶴田小に運び、片山好弘校長へ提供しました。

中野さんの雪室リンゴは2月26日から道の駅つるたで販売が行われています。



Vol.44 (筆: 川口翔大)

藤崎町で開催された『踊れ！リンゴツツォ』というイベントに遊びに行ってきました。五所川原市に『こもる』という宿を作ろうとしている香田遼平さんや藤崎町の地域おこし協力隊の笠原綾子さんという方たちがひっそりと開催。ちょっと流行りのスイーツ、マリトツツォにリンゴを加えてアレンジしたものをひっそりと振る舞うイベントでした。

香田さんは『うんこミュージアム』という大きなイベントを仕掛けたおもしろい人なのですが、協力隊になったからこそつながれた人でした！こういうつながりをつづつ大切に、鶴田町にも還元していきたいと思います！



△イベントに参加した川口さんたち

川口さんの SNS



Twitter



facebook

地域おこし協力隊の活動内容は、SNS・町ホームページでも確認することができます。